

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

どうなっているの？～カボチャ～／幼保連携型認定こども園 津田このみ学園（兵庫県）

みなさんの園では、どのような植物を育てていますか？

今回は、カボチャを育てる子どもたちの、「どうなっているの？」「面白い」などの心の動きに注目している事例をご紹介します。

植物の生長過程には、発芽、葉やツルの育ち、開花、受粉、結実、さらには昆虫との関わりなど、子どもたちの心を動かす場面がたくさんあります。この過程で、子どもたちが気づいたり疑問をもったりして興味を深めていく姿に「科学する心」の育ちを捉えることができます。



○ パンプキッズを育てよう／5歳児

5歳児の子どもたちが、「今年は園の農園で何を育てたいか？」について話し合った。そして、たくさんの野菜の種を見て、その中からパンプキッズという小さいカボチャを育てることを決めた。さらに、「（自分たちで）パンプキッズの入った甘くておいしいカレーを作りたい！」という目標を立てた。

✦ 場面1：芽が出ない……／6月初旬

5歳児2人1組で、牛乳パックで作ったプランターにパンプキッズの種を植えることになった。保育室の前にあるテラスで栽培を始めたことで、子どもたちは、毎日水やりを欠かさず行い、芽が出たことを今か今かと楽しみにする姿が見られた。2つ3つと芽が出始めたが、AさんとBさんのプランターからはなかなか芽が出てこなかった。

Aさん：「僕たちの芽はなんで出てこないんだろう？」

Bさん：「なんか見た時、緑色に膨らんでたで！ 白いのも出てた！」

保育者：「白いの？ それは何だったの？」

Bさん：「白くて細長いのが見えた」 どうなっているのかな [科学する心の気づき]

Cさん：「え！？ それパンプキッズの芽じゃない？」

Bさん：「みんなの芽と白いの似てたかも……」 どうなるのかな [科学する心の気づき]

Bさんは、芽がなかなか出てこないことが気になり、土の中を指で掘り返してしまっていたようで、出始めていた芽をうっかり折ってしまったことが分かった。



✦ 場面2：畑に植え替えよう／6月中旬

牛乳パックで育てていた芽が大きくなった。「これ以上牛乳パックの中で育てるのはグューグューできつそう……」という声子どもたちから出始めたので、みんなで相談して、畑に植え替えることにした。そして、AさんBさんは、植え替えるタイミングで、もう一度新しい種を畑に植えて育てることにした。畑では雑草もよく育つため、子どもたちは毎日の水やりと共に、草引きも積極的に行い始めた。

Bさん：「この草いつもの雑草となんか違う」 ふしぎだな [科学する心の気づき]

Cさん：「それ牛乳パックで育てている時に出てきた芽と一緒にやで！」

Bさん：「じゃあ……僕のパンプキッズも芽が出た！！」

Bさんは、自分の芽が出たことを喜び、毎日世話をして育てることへの意欲が出てきた。



❖ 場面3：受粉してみよう！／7月下旬

梅雨が明け、太陽の日差しも強くなってきた頃、パンプキッズの葉やツルは大きく育ち黄色い花が咲き始めた。Cさんが家庭で『カボチャの花が咲いたら、めしべにおしべを付ける』と、パンプキッズの花が咲いたらどうすればいいのかを調べてきた。「めしべにおしべを付ける」とあるが、めしべとおしべが分からない子どもたちは、パンプキッズの花を「どうなっているのかな」との思いで観察し始めた。

Cさん：「なんかトマトみたいに下が膨らんでいる花がある！」

どうなっているのかな [科学する心の気づき]

Aさん：「こっちは花は付いてないで？」

Dさん：「これがめしべとおしべかな？ 図鑑で見よう！」

自分たちで観察し、気づいたことを図鑑で調べたことで、黄色の花は、下がトマトみたいに膨らんでいる雌花と膨らんでいない雄花の2種類あることに気づくことができた。

おもしろい [科学する心の気づき]

どうなるのかな [科学する心の気づき]

そして、雌花にあるめしべと雄花にあるおしべをくっ付けて“受粉”をさせた。

保育者は、子どもたちの気づきを受け止め、「受粉した花がどれか分かる？」と尋ねた。

Dさん：「明日になったら忘れてしまうかも……」

Cさん：「受粉した花には目印をつけよう！」

みんなが賛成し、Cさんの考えを試すことにした



❖ 場面4：パンプキッズの実がなった！／7月下旬

受粉してから4日後、パンプキッズの実がなっていた。

Cさん：「目印付けた花にカボチャができてる！」

Dさん：「受粉が成功したんや！！」

ふしぎだな [科学する心の気づき]

Bさん：「僕の2つカボチャができてる！！」

Aさん：「あれ？ 印を付けていない花からも実ができてる！」

受粉をした花に実が付いたことに気づき、受粉が成功したことを知り、子どもたちも保育者も喜んだ。その後、自分たちで受粉をしていない花にもカボチャができているのを見つけ、不思議に思った子どもたちは、「どうしてなのか」を考えた。すると……

Eさん：「ハチが飛んでる！」

どうなっているのかな [科学する心の気づき]

Bさん：「あ、花の中に入っていった！」

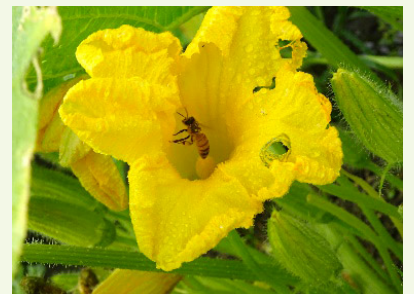
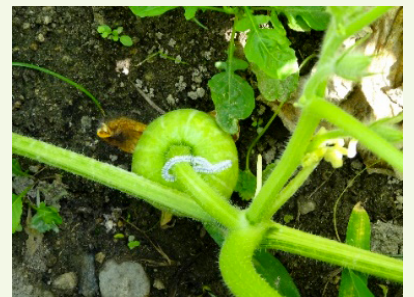
おもしろい [科学する心の気づき]

Cさん：「もしかしてハチが受粉してくれてるのかな……？」

Fさん：「ハチのお尻に何か付いてる！」

畑にはミツバチなどの虫がたくさん飛んでいることに気づき、（受粉は自分たちでなくても）虫たちがしてくれるということに、（絵本や図鑑ではなく）実際に自分たちの目で見て知ることができた瞬間であった。

子どもたちは、育てた野菜が大きくなっていることを見て、触れて、感じる事ができ、収穫に期待をもって過ごしている。そして、“おいしいカレー作り”をクラスみんなが楽しみにしている。



パンプキッズを栽培し、日々生長していく姿を楽しみに観察する過程で、「どうなっているのだろう」「不思議だな」と驚きや不思議さを感じ、自ら進んで対象物に関わろうとする姿がたくさん見られるようになった。また、調べたことを友達に伝えて情報を共有することの楽しさや、自分たちで「どうなるのかな？」と予測を立てる面白さを味わっていた。「種は広い場所に植えること」「土の中の種は白い芽を出すこと」「白い芽が出たことはパンプキッズになる大事な一歩であるということ」は子どもたちが日々観察していく中で見つけ出したことである。また、虫が受粉に一役かっているということに子ども自らが気づいたことは、日々の観察力、思考力、そして言葉で伝え合う力、豊かな感性が育ってきたからこそその姿だと思われる。

育てた野菜が大きくなっていることを見て、触れて、感じることで、収穫への期待につながった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <https://www.sony-ef.or.jp/preschool/>」